

令和8年度 長吉西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語3技能
3 年	学校	170	55	51	5.9	13.4	466
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

全国と比較して、「書くこと」（60.6％）の領域において課題が見られたが、「書くこと」の中でも表現を工夫して書く問題では86.7％と高い正答率であった。一方で、文章のよい点や改善点を見いだして記述する問題や、擬態語の効果を説明する問題では正答率が40％未満となり、自分の考えを根拠をもって記述する力に課題が見られた。また、「話すこと・聞くこと」（49.4％）は全国平均を14.5ポイント下回り、話し合いの内容を整理・判断する力にも弱さが見られた。

<数学>

全国と比較して、「図形」（38.7％）の領域において課題が大きく見られた。特に、図形の証明や角の関係を判断する問題では正答率が30％前後と低く、論理的に考察し説明する力に課題が見られた。一方で、「数と式」（64.6％）では全国平均との差が比較的小さく、同類項や文字式に関する基礎的な理解はおおむね身に付いていることがうかがえる。

<英語>

全国と比較して、IRTバンド2（36.6％）及びIRTバンド3（39.8％）の割合が高く、IRTバンド4（13.7％）及びIRTバンド5（1.2％）の割合が低い結果であった。平均IRTスコアは460で、全国平均499を39ポイント下回っており、上位層の割合に課題が見られる。さらに、技能別では「聞くこと」が1.0／2、「読むこと・書くこと」が2.2／5、「話すこと」が0.3／2で、いずれも全国平均を下回ったが、特に「話すこと」は全国平均との差が0.4ポイントと最も大きく、課題が顕著であった。

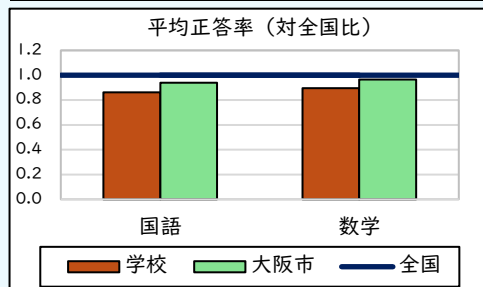
今後に向けて

今後は、国語において根拠を明確にして自分の考えを記述する活動や、話し合いの内容を整理して表現する活動を充実させる必要がある。数学においては、図形の性質や証明の過程を言葉や式で説明する学習を継続し、思考・判断・表現する力の向上を図っていく。英語においては、自分の考えや経験を即興で表現する活動を日常的に取り入れ、「話すこと」の力を育成していく必要がある。また、「読むこと・書くこと」と関連付けながら4技能を統合的に扱う授業を充実させ、生徒が英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る機会を増やしていくことが重要である。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

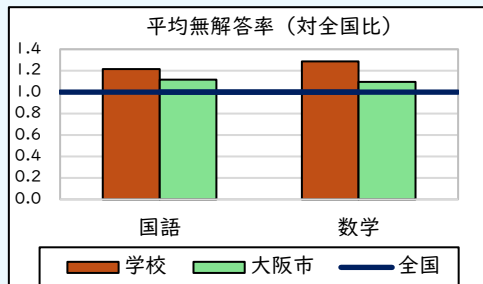
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	55	51
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



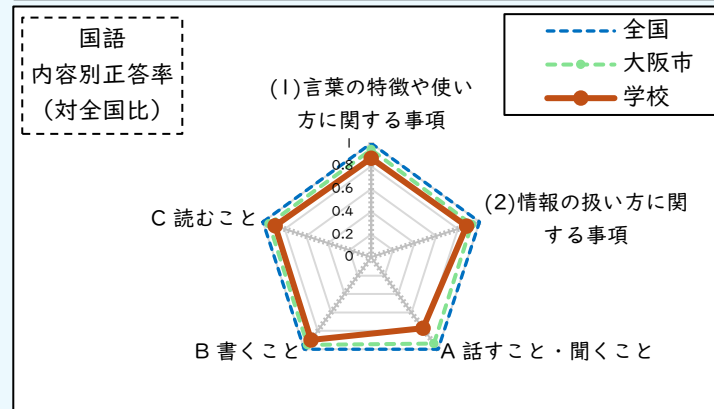
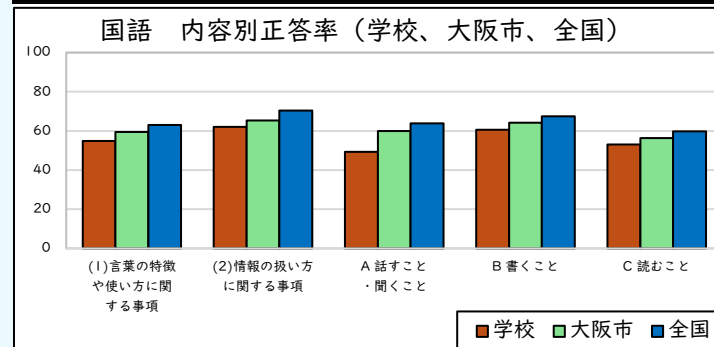
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	5.9	13.4
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



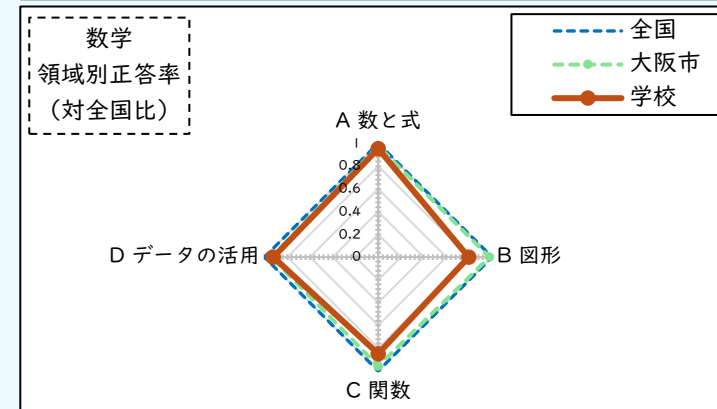
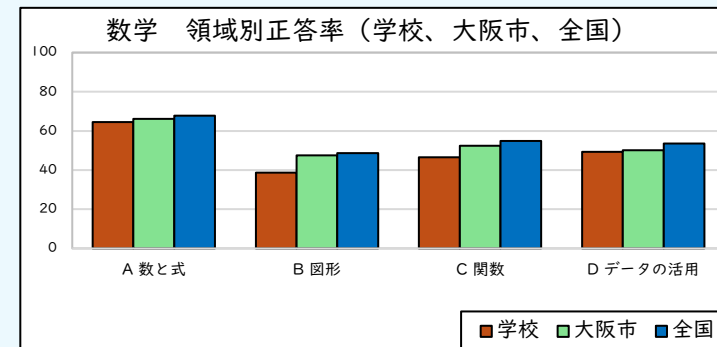
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	54.8	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	62.0	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	49.4	59.9	63.9
B 書くこと	3	60.6	64.2	67.4
C 読むこと	3	53.0	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	64.6	66.1	67.8
B 図形	4	38.7	47.6	48.7
C 関数	3	46.5	52.5	54.8
D データの活用	4	49.3	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

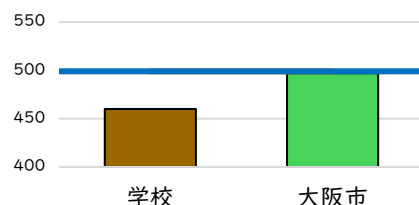
英語 平均IRTスコア

学校	460 (466)
大阪市	497 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

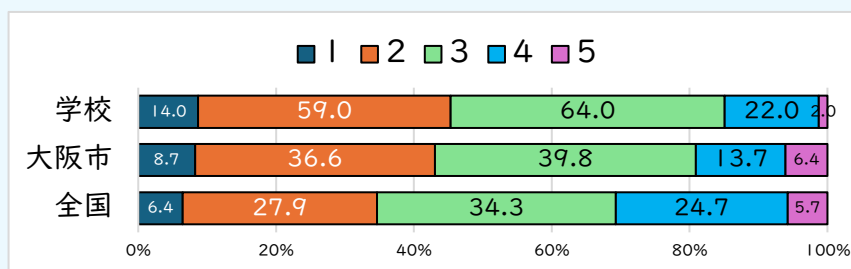
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

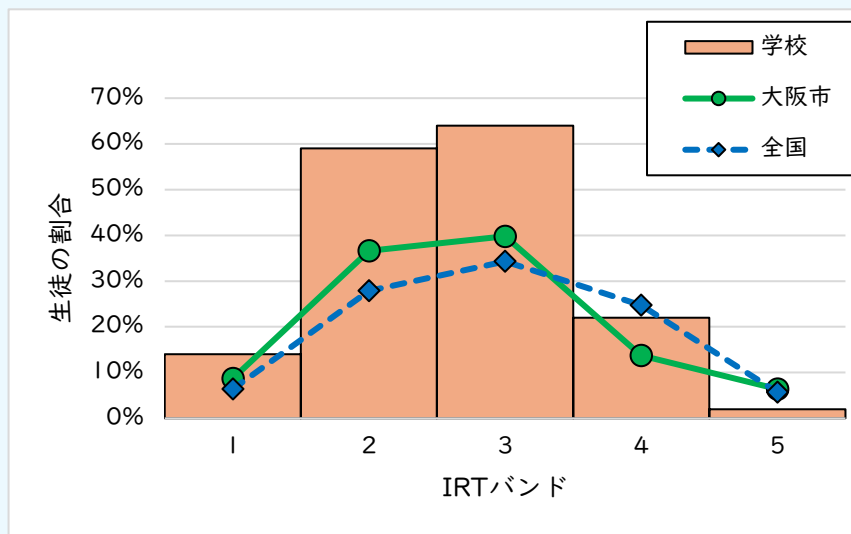
	1	2	3	4	5
学校	14.0	59.0	64.0	22.0	2.0
大阪市	8.7	36.6	39.8	13.7	6.4
全国	6.4	27.9	34.3	24.7	5.7

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



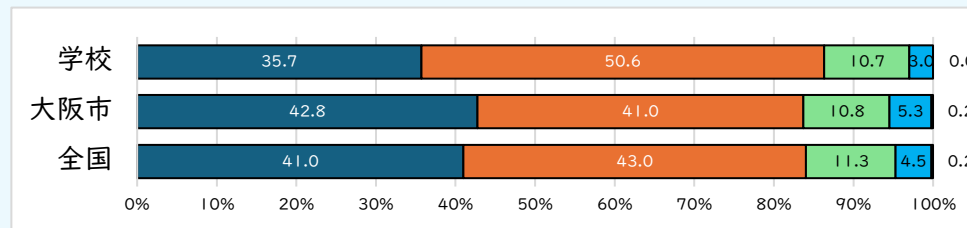
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

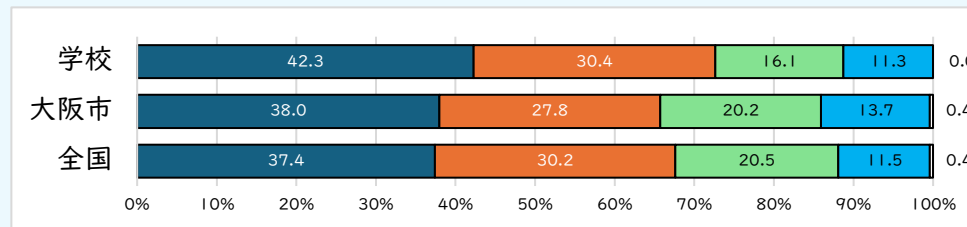
質問番号 質問事項

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



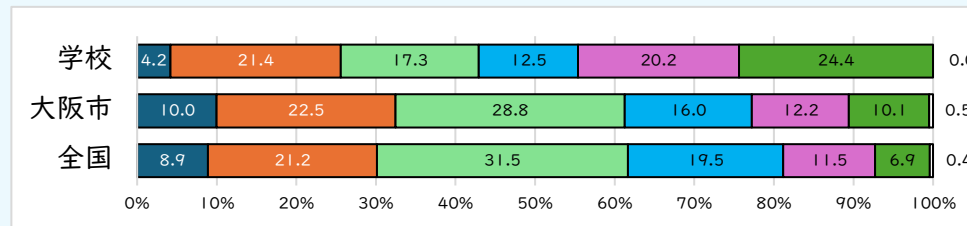
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(10)	将来の夢や目標を持っていますか
------	-----------------



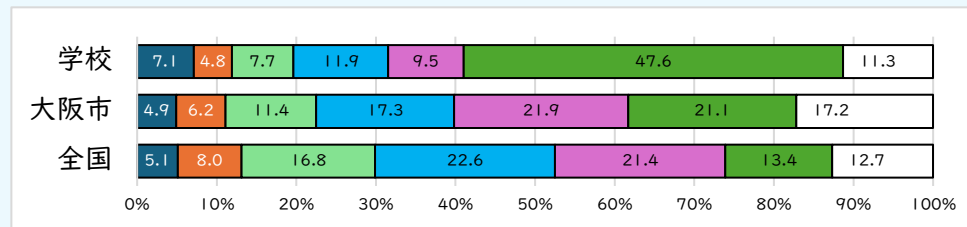
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット
------	---



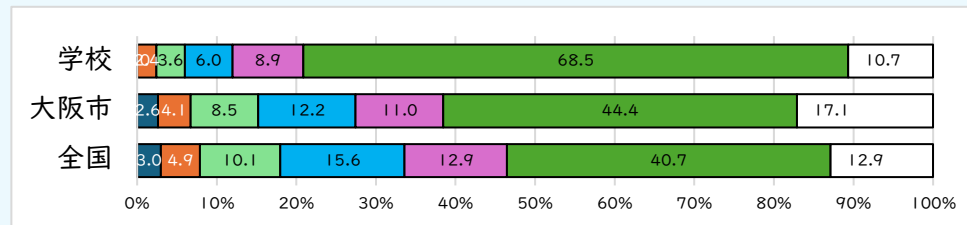
- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ
------	--



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない

(26)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
------	--



- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号

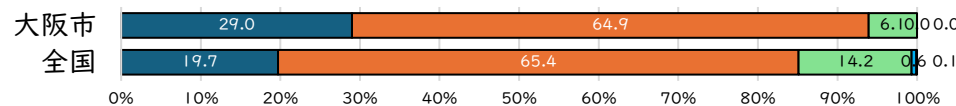
質問事項

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

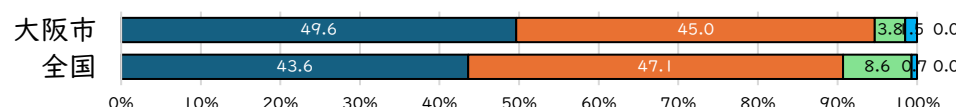


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

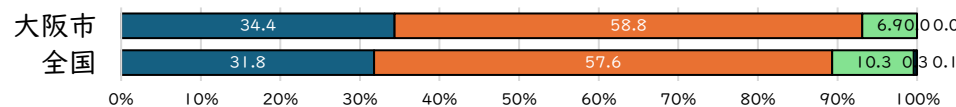


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(66)

生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、当てはまる

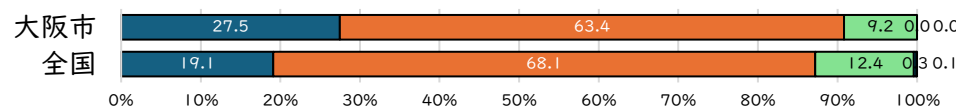


1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

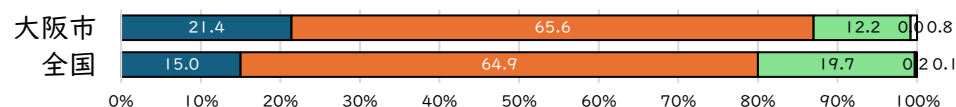


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(36)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、行った



1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行かなかった
4 全く行かなかった